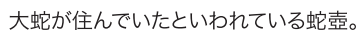


(六)牛尾道 (ハイキングコース)



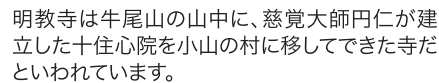
いわれま
す。寺の
縁起によ
れば、平
安時代、
坂上田村
麻呂が妻
の病を治
すために
鹿の胆を

境内にある大杉（区民誇りの木）は寺の歴史の証人です。この杉は「天狗杉」とも呼ばれ、行叡和尚の履物が杉の下にあったことから、行叡和尚は音羽山の天狗だったといわれました。

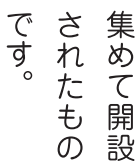


琵琶湖、
比叡、比
良の山々
が一望で
きます。

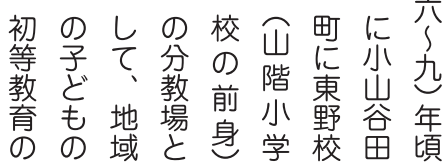
この寺は真宗西本願寺派に属し、山号を露山といっています。一四六九年、小山の郷士、中川喜平治が本願寺第七代存如上人に帰依し、当寺を建立しました。その子玄鎮は蓮如上人より名号や巻物、書付を



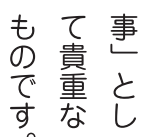
この寺には数奇な運命をたどった「千手観音」の話が伝わっています。昔、山崩れ、洪水で本堂にあった「十一面観音像」が行方不明になりました。数年後、音羽川の下流の地で農民が見つけ、お堂を建てて安置しました。このお堂は後に東野の称名寺となり、（一九ページ参照）今も像は称名寺に安置されています。



江戸時代に水争いを解決するために考えられた分水石をはじめ、京都の田舎で使われた衣食住に関する資料、仕事に使われた農機具、商いの道具など、江戸中期から一九六〇（昭和三五）年頃までの約五百種類、二千点が展示されています。



一八七三～六（明治六～九）年頃



54 牛尾山ハイキングコース

昔の面影がまだ残る小山から音羽川の溪流を遡って四季の自然の趣を味わえる山道です。途中には蛙岩、大師堂、弘法大師が修行したと伝えられる経石、ミナトノイサ聴呪の滝、波切不動尊、音羽の滝、大蛇伝説の蛇壺など、いにしえを偲びながら寺の石段を昇ると法蔵寺があります。